

9

失敗の本質

2021.04.26
2021.04.19
2021.05.18
2020.12.04

① 戦争の原因は、どこにあったのか？

1931 満州事変、満州国の樹立、日中 15 年戦争

中国への侵略、日独伊三国同盟、組む相手のレベル、トインビー

② 1941. 12 真珠湾攻撃

何故、負ける戦争をしたのか？

英米の圧力、陸軍の見通し、海軍の意見、客観的な見通し

③ 1945. 8 敗 戦

事前に又は途中で中止する方法はなかったのか？

先行する第二次世界大戦、英の反撃、独の独走と失敗

- ① 1933.3 国際連盟のリットン報告書採択(満州事変)に反対して、
日本が連盟脱退通告(松岡首席代表)
1939.7 米、日米通商航海条約の破棄(石油等軍需品の禁輸)
1937.7 盧溝橋事件に始まる日中戦争、中国への多大の迷惑
1939.7~8 独・ソ不可侵中立条約成立(ヒトラーの独走)
1939.8 ノモンハン事件、日本軍はソ連の機械化部隊に敗退
独と防共協定を結んでいた日本
進行中の日独伊三国同盟は中止
独、ポーランドに進攻
- ② 1939.9 第二次世界大戦が勃発 (2 年 3 ヶ月前)
1940.4~8 独ヒトラーの快進撃、デンマーク、ノルウェー、ダンケ
ルク、仏降伏
1940.8 独ヒトラーのロンドン大空襲の失敗、英チャーチルの反撃
1940.9 日独伊三国同盟成立 (1 年 3 ヶ月前) (ナチズムとの共闘)
1941.4 日ソ中立条約成立 / この時、独米の関係を悪化させ、独と手を切り、三国同盟から脱
1941.6 独ヒトラー、不可侵条約を破棄、ソ連に宣戦(1941. 11 モスクワ攻略失敗) 中立化して、世
1941.7 日本軍、南部仏印へ進駐(資源、特に石油を求めて) 争から身を引く
1941.12 日本軍真珠湾攻撃、太平洋戦争開始(対米戦力比ピーク時で 70%) 手遅れ
- ③ 1942.8 独ソ、スターリングラードの攻防戦開始
(1943.2 独軍スターリングラードで全滅)
1945.8 広島、長崎に原爆(8 日)、ソ連対日参戦(8 日)
ポツダム宣言受託(14 日)

日米開戦の選択肢

2021.05.18

2020.12.04

開 戦 か	中 止 か	臥薪嘗胆か
1. 現下の危機を打開するために、時機を12月初頭と定め、作戦準備をする (11/25 御前会議)	1. 対米交渉が12/1 午前0時に成功すれば武力発効を中止することとする	1. 米との外交交渉がうまく行かなくとも、開戦は回避し、対米交渉を継続する 日中の国交回復 アジアからの撤退 三国同盟からの脱退を行う
2. 開戦、中止、臥薪嘗胆、どうなるか解らないから開戦が選択された	2. 現状で開戦を中止しても、将来の国力の低下は明らかである	2. 国際情勢の変化に頼る 独の限界と敗北 日独伊 対 米英 から 資本主義国 対 社会主義国
3. 開戦後の成算なしとしても、開戦は避けられない 万一の僥倖に賭ける	3. 将来的に確実な敗北となることが予想される	3. 国際環境の好転 No.2 による米英との関係修復

△カケ
×

×見込なし

○見込があるかもしれない

I. 戦争は避けられなかったのか (真珠湾から沖縄戦)

2021.05.18

2020.11.16

1. 第二次世界大戦で日本が負けた原因は何であったのか。

「失敗の本質」(1984.5 ダイヤモンド社刊 野中郁次郎外著)を読んだが、それは、戦闘に負けた要因の理論化であり、過去の成功体験への根拠のない依存への反省であった。日本陸軍は、奇襲と白兵戦による銃剣第一主義(米軍は火力重視の合理的な戦い)。海軍は、戦艦武蔵、大和に代表される大艦巨砲主義(米軍は空母と航空機による機動戦)。精神主義と米軍の豊富な物量への挑戦であり、既存の古い成功体験と新しい考え方との対決が失敗の原因であったという。

しかし、この考えは正しくない。敗戦(失敗)の本質は、戦闘ではなくもっと別のところにあったのではないか？日本は失敗前の反省を欠き、戦争突入前の十分な対策をとっていないと感じた。

(陸軍の戦争認識)

1941 年初め九段の偕行社における秋丸機関の報告会における議論では、
「日本の戦力は、日中戦争の倍の戦争に耐えられるか」という問、

(1) 人口の問題 兵力をどれだけ出せるか (有沢)

(2) 生産力の問題 (中山)

(3) 船と油の問題 資源の確保の問題 (武林)

結論は、倍の戦争は出来ないという冷静なものであった。

これ以上続けると日本の生産力はなくなり、生活力さえなくなるというものであった。(それなら開戦を回避又は延期すべきであった)

秋丸の回想では、米日の経済力は 20 : 1 というものであった。

しかし、結局 11 月 26 日にハル・ノートが提示され、日米交渉は頓挫し、残された唯一の選択肢であるとして「開戦」が選ばれることになる。

昭和 21 年に昭和天皇が側近に語った記録で、「実に石油の輸入禁止は日本を窮地に追込んだものである。かくなった以上は、万一の僥倖に期しても、戦った方が良いという考えが決定的になったのは自然の勢いと云わねばならぬ...」と言われたとのことであった。

結局のところ、日本は「戦争の終末」の見通しなく、そしてそれゆえに戦争を始めたのである。「開戦論を抑える」ためには、「3 年後でもアメリカと勝負ができる国力と戦力を日本が維持できるプラン」を数字によって説得力を持たせて明示し、時間を稼ぎ、その間に国際環境が変化するのを待つことが必要であった。そしてそのチャンスは本当に無かったのか。

チャンスはあったと私は考える。

2. (日米和平交渉)

第二次世界大戦直前の1941年2月から12月8日の真珠湾攻撃までの期間、日米国交調整を目的として行われた外交交渉。日米関係の悪化を防ぐため、41年2月第二次近衛内閣は野村吉三郎を駐米大使に任命し、日米交渉を開始した。4月C.ハル国務長官と野村大使の間で、民間外交の結晶としての「日米了解案」が取上げられたが、松岡洋右外相は異議を唱え、強硬論に固執し、また三国同盟問題、中国撤兵問題などをめぐる双方の見解の差は大きく、交渉は難航した。6月独ソ開戦ののち日米交渉の妥結が急務となり、内閣はいったん総辞職して、日米交渉打切りを唱える松岡外相に代えて豊田貞次郎海軍大將を外相とする第三次近衛内閣が成立した。しかし7月下旬統帥部の主張によりインドシナ進駐が行われ、アメリカ、イギリスはこれに対抗して日本資産の凍結、石油の全面的禁輸を断行した。8月近衛首相は、F.ルーズベルト大統領との直接会談を求めたが実現せず、10月上旬にはインドシナ、中国からの撤兵受諾により交渉成立の見込みありとの主張が生まれたが、東条英機陸将は反対を続けた。このため近衛内閣は総辞職し、東条内閣がこれに代った。東条内閣は11月5日の御前会議で最後の対米交渉を甲、乙両案で進めることにし、11月中に交渉不成立の場合には12月初めに武力を発動する方針を決定した。11月26日アメリカは日本の満州国否認などを要求した「ハル・ノート」を手交し、日本は12月1日の御前会議で対米、英、オランダ開戦を決定し、日米交渉は決裂するにいたった。(ブリタニカ)

松岡外相や東条陸将などの戦争主義者の主張を、日米の戦力差(陸軍では米国20、日本1とも言われた)を見据え、国際連盟にとどまり、独伊との三国同盟に無益な拘束を受けることなく、将来の国益を議論すべきであった。開戦前の、40年8月のヒトラーのロンドン大空襲はイギリスの抗戦を招き、41年11月の独軍のモスクワ攻略は失敗し、翌年の1942年8月には、スターリングラードの争奪戦は第二次世界大戦中最大の激戦で1943年2月にはドイツ軍33万人が全滅した。欧州では戦況が変化し、第二次大戦後の米ソ二大勢力の対立も見抜けた筈である。

(ハル・ノート)

1941年11月26日、日米交渉で米国国務長官ハルが日本の野村、来栖両大使に提示したアメリカ側の対日提案。

- (1)日本軍の中国・インドシナからの完全な撤退
- (2)中華民国国民政府以外の中国における政府・政権の否認
- (3)日独伊三国同盟の廃棄

などを要求した。日本側は、これを真剣に検討することなくアメリカの最後通牒とみなし、太平洋戦争に突入したが、余りにも早計であった。

ハル・ノートの合理的な受諾こそ日本の最後のチャンスであった。

3. 米、日米通商航海条約の破棄通告 (1939. 7. 26)

M44.2 ワシントンでの調印以来 30 年に渡って、日米友好の絆となっていた。しかし、日本の中国侵略、対ソ戦争などに対し、**アメリカの軍需品の禁輸により日本に致命的な打撃と教訓を与えようとするものであった。**板垣陸将は、直ちに三国同盟を締結すべきとしたが、**石渡蔵相が、**米内海相に「三国同盟を結ぶ以上、日独伊三国が、英米仏ソの四国を相手に戦争する場合もあるが、**海軍に勝算はあるか？」**と問った。**元首相、海将の米内はあっさりと、「勝てる見込なし。日本の海軍は、英米を相手に戦争するようには建造されていない。独伊も問題にならない」と**応えた。これで、三国同盟は、一旦打切りになった。

独、ソ不可侵条約 (1939. 8. 23)

ノモンハン事件(1939.5~9)の直後の日本にとって、
独のソ連に対するこの条約はショックであった。

ソ連を対象とする日独防共協定の話合中(延 70 回、200 日)でもあり、ヒトラーの決定は、青天の霹靂であった。日独伊三国同盟は中止となった。

第二次世界大戦勃発 (1939. 9. 3~1945. 8. 15)

1936. 日独防共協定 (1937 伊も参加)

1937.7 日中戦争勃発

1938.8 独、オーストリア併合

1939.8 独ソ不可侵条約

1939.9 第二次世界大戦が勃発

1939.9.1 独はポーランドに侵攻、9.3 英仏は独に宣戦、ソ連もポーランドに侵攻、1939.11 ソ連はフィンランドに宣戦

1940.9 日独伊三国同盟成立

1941.6 独ソ戦が勃発

1941.12 太平洋戦争

第二次世界大戦の遠因

(1) 中国、インド、アラブ世界などの植民地、半植民地の民族解放闘争
1915. 対中 21 ヶ条要求 (中国の対日感情の悪化) (東洋の盟主となるチャンス)

(2) 1929.10 世界経済恐慌

(3) 1931. 満州事変

(4) 1933. ヒトラー政権の成立

(5) 結果として、枢軸国(ドイツ、イタリア、日本)と連合国(米、英、仏、ソ連)の戦争

(6) 第一次大戦の未解決問題

4. 日独伊三国同盟(1940.9.27)

(ヒトラーの快進撃)

1940.5.1 ヒトラーは、西部戦線総攻撃命令を下した。

ドイツ国防軍の電撃作戦は、世界戦史に見られぬ鮮やかさであった。

5.14 オランダ降伏、5.17 ブリュッセル墜落、英仏ダンケルクから撤退、
6.14 パリを無血占領、6.22 フランス降伏……。

この世界情勢の激変が前年の夏に立消えとなった三国同盟を再燃させた。
この時、仏蘭の敗北に伴うアジアの資源地帯からの撤退は、陸海軍の南進
戦略として千載一遇のチャンスとする者が多かった。良識派の吉田海相
は、英を全面援助している米と準敵国関係になり、将来の日米戦を招くと
反対したが大勢には抗しきれなかった。

(松岡洋右外相の構想)

独の前年の(1939.8)独ソ不可侵条約と今回の三国同盟(1940.9)を結合し、
日独伊ソの四国協商を可能とし、米英と対抗できる旨を主張。

(日独伊三国同盟)

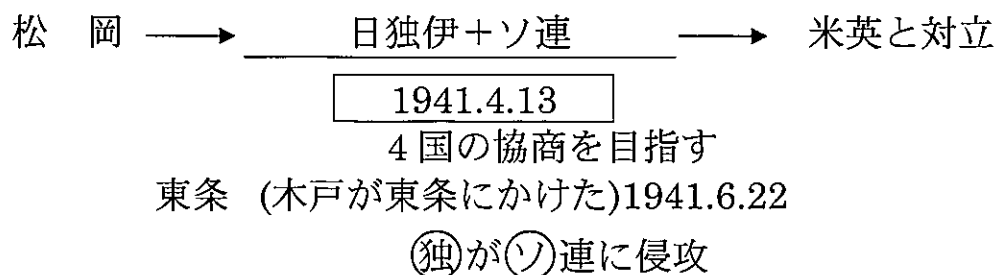
1939.8 突然に締結された独ソ不可侵条約により一時中断していた交渉が再
開。1940.9.27 全面的な合意を得ることとなった。

当初(1939)は、対象をソ連、英、仏に限定しようとしていたが、1940、松
岡外相は中国、南方問題を有利に解決するためにアメリカに対する立場を
強化しようと主張した。

この条約は、日本の対米英関係をさらに悪化させ、対ソ関係も日ソ中立条
約(1941.4)の成立にもかかわらず、独ソ戦の開戦(1941.6)によって期待を
裏切られた。

同盟の成立は、米英を強く刺激し、太平洋戦争突入の要因となった。

独は世界の嫌われもの
石井菊次郎(外交余録)

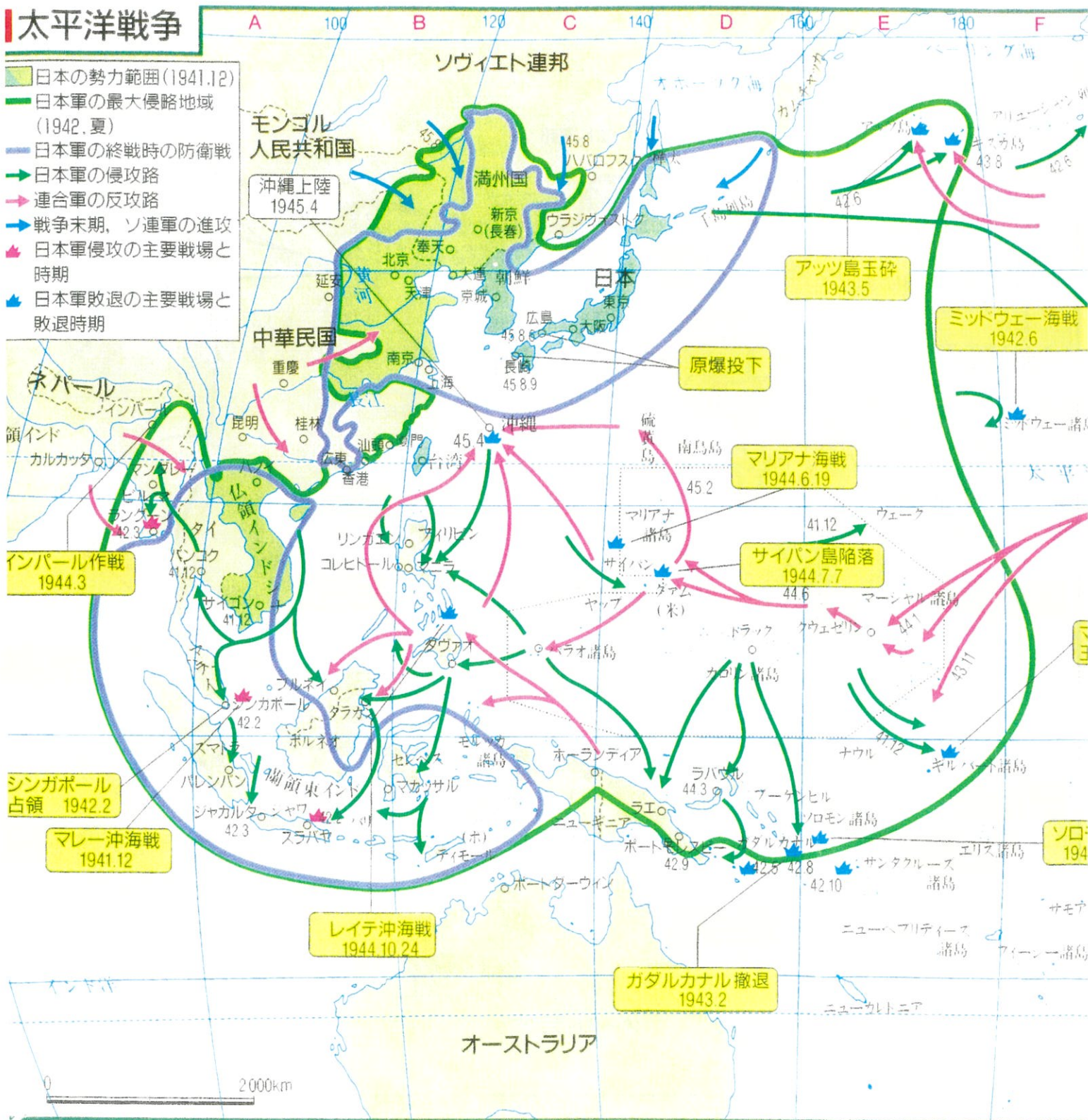


5. 太平洋戦争(日本軍の惨憺たる失敗)

- ① 真珠湾攻撃
(1941.12) 攻撃部隊は 11.26 エトロフを出発、攻撃は航空機と特殊な潜航艇で実施。12 月 7 日出航中の航空母艦を除き、東太平洋艦隊を全滅。海上兵力に対する航空兵力の優位。日本の最後通牒は、攻撃後にアメリカ大使に手交。米国は 12 月 8 日対日宣戦布告。(2000 人以上の米将兵が戦死)
- ② ミッドウェー海戦
(1942.6) 陸戦のターニングポイント。
日本軍は、連合艦隊の総力をあげて出撃。攻撃部隊の発進準備中に米急降下爆撃機の急襲、四主力空母、主巡洋艦一隻が沈没、航空機 300 機と多数の熟練パイロットを失う。米軍の損害は空母一隻沈没、航空機 150 機喪失。
- ③ ガダルカナル撤退
(1943.2)
(日本軍派遣部隊の 2/3、戦死者 2 万 4 千人) 陸戦のターニングポイント。情報の貧困や兵力の逐次投入。米軍の水陸両用作戦。水陸両用作戦の未開発。日本軍の作戦失敗。物資不足、マラリア感染、海戦敗北、航空隊の損耗大。連合軍は総反抗の転機。
- ④ インパール作戦
(1944.3)
(日本軍死傷者 7 万 2 千人)
(英印軍 1 万 7 千人) 雨期の到来と英印軍の反撃で作戦失敗。しなくてもよい作戦の敢行。
この作戦は日本軍の作戦指導の硬直性を示し、ビルマ防衛計画は崩壊した。
- ⑤ マリアナ沖海戦
(1944.6.19) 日米兵力間の量的質的格差の明確化。
日米の空前の艦隊決戦、米軍の損失 航空機約 100 機外、日本軍は航空機約 400 機、空母 3 隻、基地航空隊の損失。
- ⑥ サイパン島陥落
(1944.7.7) 米軍約 7 万、日本軍約 3 万の戦闘。海空からの米軍支援により日本軍全滅。以後 B29 による日本本土空襲開始。
- ⑦ レイテ沖海戦
(1944.10)
(日本軍死者 1 万人) 作戦失敗。作戦目的の曖昧さ、参加艦隊の任務把握の不充分、統一的指揮の不存在。作戦失敗。米軍の損害は小型空母等 6 隻。日本軍側は、武蔵等戦艦 3 隻、空母 4 隻等が沈没。連合艦隊は事実上壊滅。
- ⑧ 沖縄戦
(1945.4)
[日本軍将兵 6 万 5908 人、
県出身軍人軍属 2 万 8228 人、
一般県民 9 万 4000 人死亡] 作戦失敗。作戦目的の曖昧さ。大本営と現地軍の意思の不統一。日本的組織の全体的目的課題把握の不足。
米軍は本土進攻をスムーズに運ぶために物量を投入、日本軍は本土進攻を 1 日でも長引かせるための出血作戦。(米軍将兵 1 万 2281 人死亡)(日本 16 万人)
- ⑨ 原爆の投下 (広島、長崎の死者 210,000 人、負傷者 158,000 人)
- ⑩ 太平洋戦争の戦没者 310 万人、軍人軍属 230 万人、外地戦没 30 万人、内地 50 万人(内餓死 140 万人)
経済力の差のもたらしたもの

太平洋戦争

- 日本の勢力範囲(1941.12)
- 日本軍の最大侵略地域(1942.夏)
- 日本軍の終戦時の防衛戦
- 日本軍の侵攻路
- 連合軍の反攻路
- 戦争末期、ソ連軍の進攻
- 日本軍侵攻の主要戦場と時期
- 日本軍敗退の主要戦場と敗退時期



7. トインビーの厳粛な一言

(1) 1929 年 (満州問題) の厳粛な一言

1931 年満州事変の 2 年前の秋に京都で開かれた第三回太平洋問題調査会国際会議で来日したトインビーは、日本は一つの歴史的な運命的岐路に立っていると言った。

「満州問題に対する日本の責任は大きい、それは日本の運命を決する」という厳粛な一言であった。その言葉は、日本にして一步誤まらんか、そこをみまうものはローマ帝国と戦ったカルタゴの運命であるという洞察があった。

歴史的、運命的な岐路に立っている日本の責任は大きく、日本の運命を決する。

日本は単に中国と戦うのではなく、アメリカやソ連のような、20 世紀の産業的ローマ帝国と戦うことになるのであるという、世界文明の視野に立った歴史の教訓がその念頭に去来していたのである。

それ以後の歴史の進展は、トインビーの予言した方向に進む。

(2) 歴史の進展

彼の歴史の理解尺度は、日本も、英国も、アメリカも、ソ連も孤立的には存在していなかった。

彼が見ていたものは、西欧文明であり、東洋文明であり、そしてその接触交渉であり、その帰結であった。

その尺度は、ギリシア・ローマ文明、否すべての既存文明の生起興亡の理論であった。

学び取った教訓は、その民族だけでなく、同胞である全人類のために学び取れたのである。原子力時代においては、人類は自分たちを亡ぼすまいとすれば、一つの家族となって生活することを学び取らねばならない。これこそ、日本の学び取り、そして他に教え伝えることのできる真実である。

自分の生きている時代を、高みから眺めるのは意外に難しい。ある時代を俯瞰できるのは、その時代を終わった後の人の特権である。その特権は、歴史を読むことによって行使される。

渦中にいる人々は、得てして見通しがきかない。

(3) 太平洋戦争

柳条溝事件を契機とする満州事変の勃発、国際連盟からの脱退、日華事変への拡大、太平洋戦争への発展、そして、最後に原子爆弾とソ連の参戦によって、ポツダム宣言の受諾、終戦となり、占領下におかれることとなった。

そのときになってはじめて、16 年前、われわれ日本人に対して、自らの過誤によって不幸な運命を招かないようにと、警告を与えてくれたトインビーのことが思い出され、忘れがたいものとなった。

1933 年には、満州国問題を巡り国際連盟から脱退、日本は孤立を深め、ナチスドイツ(ナチズム)との同盟と真珠湾への道に追い込まれていく。

日英同盟を名目に第一次大戦に参戦、1915 年の対華 21 カ条の要求、1917 年のロシア革命に対するシベリア出兵...植民地帝国への道を進み、アジアの自主自尊に資する日本の選択を構想できず、欧米追従路線を進む中で、列強の番犬的な身分を、いつか忘れる行動をとったのが誤りであった。

8. 日本の発展の軌跡 (40 年毎の上昇と下降)

2021.05.18

(1) 開国(1865 年)から日露戦争(1905 年)への 40 年間 (上昇) ↗

(2) 日露戦争(1905 年)から終戦(1945 年)への 40 年間 (下降) ↘

— 日露戦争の遠因 —

- ① 日露戦争の勝利により関東州を取得(遼東半島のほとんど全部)
- ② 満州鉄道、安東鉄道、南満州鉄道
鉄道守備の軍隊駐屯権を得る(最初 1 万人→最後 70 万人)
- ③ 関東州の旅順、大連に司令部を置いた(関東軍)
- ④ 満州へ 40~50 万人の日本人移民
- ⑤ 1912 年、清朝亡び、中華民国という新しい国の設立

(3) 終戦(1945 年)からプラザ合意(1985 年)への 40 年間 (上昇) ↗

(4) プラザ合意(1985 年)から次の区切り(2025 年)への 40 年間 (下降) ↘

9. 日中戦争の経過

日中戦争の原因は、日清・日露戦争で獲得した中国大陆の日本の権益の拡大と強化であり、中国に対する配慮は全く無く、世界列強の圧力を躲さんとする日本の利己主義であった。

1914.7 第一次世界大戦

1915.1 21 カ条要求提出
満蒙におけるドイツ権益の継承
日露戦争で得た権益の強化、拡大

1921.12 日英同盟破棄

1928.6 張作霖爆殺事件

1931.9 柳条湖事件
満州事変の引き金
関東軍(石原莞爾中佐)の謀略
柳条湖で満鉄路線を爆破し中国軍のしわざと偽り攻撃を開始

1933.2 国際連盟、リットン報告書、勧告
松岡洋右代表退場

1936.11 日独防共協定、ベルリンで調印

1937.7 盧溝橋事件

日中戦争

参考図書

- | | | |
|-------------------------|--------------|--------------------|
| 1. 失 敗 の 本 質 | 野中郁次郎外著 | 1984.5 ダイヤモンド社 |
| 2. 沖 縄 県 の 歴 史 | 新里恵二外著 | S.47.5.15 出川出版社 |
| 3. 亡 国 の 本 質 | 赤 城 毅 著 | 2020.10(株)PHP 研究所 |
| 4. 昭 和 史 Vol.1 | 半 藤 一 利 著 | 2013.2.20 平本社 |
| 5. 歴史探偵近代史をゆく | 半 藤 一 利 著 | 2013.4.24PHP 研究所 |
| 6. 経済学者たちの日米開戦 | 牧 野 邦 昭 著 | 2018.7.30 新潮社 |
| 7. 戦 世 からぬ 伝 言 | 沖縄戦デジタルアーカイブ | 2015 沖縄タイムス社 |
| 8. 人はなぜ戦争をするのか | フロイト 中山元訳 | 2013.4.30 光文社 |
| 9. 人はなぜ戦争をするのか | 寺 島 実 郎 著 | 2018.3.15 岩波書店 |
| 10. 図 説 世 界 史 | 東京書籍編集部 | 2003.2.1 東京書籍 |
| 11. 歴史の研究(抄訳) | トインビー 長谷川松治訳 | S.42.6.2 中央公論社 |
| 12. ローマ人の物語Ⅱ | 塩 野 七 生 著 | 1994.9.25 新潮社 |
| 13. ペリー提督日本遠征記 | 猪 口 孝 監 修 | 1999.10 NTT 出版 |
| 14. 昭和と日本人 | 半 藤 一 利 著 | 2015.11.16KADOKAWA |
| 15. ブリタニカ国際大百科事典(小項目事典) | フランク・ギブニー編集 | 1974.7.1TBS ブリタニカ |
| 16. 昭和天皇実録その表と裏1 | 保 坂 正 康 著 | 2015.12.4 毎日新聞出版 |
| 17. 昭和天皇実録その表と裏2 | 保 坂 正 康 著 | 2015.12.4 毎日新聞出版 |
| 18. 東条英機の証言 | 東 京 裁 判 | 2017.8 |
| 19. 太平洋戦争への道 | 半 藤 一 利 著 | 2017.8.18PHP 研究所 |
| 20. 日本はなぜ戦争に二度負けたのか | 大 森 実 著 | 1998.6.25 中央公論社 |

回帰分析

傾向をつかむ (予測の仕組み)

(重回帰分析)

先のこととも考え合わせ

過去の経験も考える

予測とは、欠落している部分の情報を作り出すことである。

大井 平 予測の仕組み

2020年10月 統計の思考入門

何事かを考えるプロセスにおいて 統計の技術を用いる活用する。

数字に置きかえる ... 思考を、そのプロセスで。

特徴とは平均からの距離

2つの現象を3つの現象を回帰する。

$$Z = ax + by + c$$

$$\sum \epsilon_i^2 = \sum (z_i - ax_i - by_i - c)^2$$

たくさんの変数の複雑にかかわっている社会現象に科学的なXを
与える手法の一群は多変量解析と呼ばれる。

Excel 回帰分析

説明変数 X_2 (加齢) と X_1 (身長) を使って、結果説明変数 Y (体重) を
説明する。

$$\text{体重} = (-89.698) + 0.805 \times \text{身長} + 0.005 \times \text{加齢} + 121 -$$

$$Y = -89.698 + 0.805 X_1 + 0.005 X_2$$

回帰分析の最小二乗法による回帰式の各係数は、正規方程式の解である。

単回帰分析は説明変数が1つである特殊なケースである。

2. 人生は予知のかたまり

① 未来は過去の延長線上にあるか.....

未知

未来は、
① 未来は人の努力によって変えられる 一人の問題
② 未来は不確定である 未来の問題

(2) 予知には2通りある。

① 過去の経験が未来に反映されるもの、予測できるもの

② 過去の経験から予測できないもの、予測できないもの

③ 経験から予測できないもの、予測できないもの

④ 予測する未来の範囲の、予測範囲のもの

⑤ 未来は過去の延長線上にあるもの、予測範囲のもの

(3) しかし、過去に頼りて未来を判断する方法は不十分である

—— 1. 予知の手法 ——

従って、重要なことは

① 過去の経験から

② 現在の状況から

(4) 教師は、過去の経験を始めとして、その日々に大抵に起こるような、起きている

事、大抵を語り上げると、その日は終る大抵を捕らえる。

従って、智者は引用されては書けずと不作為の年々同期的に書く語を共に生かす

しかし、事件はいつかある、時点をミサリする事は出来ない

…… 智者は是の事を知る事がある

3 変動とは 将来数値の変動 といふ。

(1) 傾向変動

全体の基調

全体の流れ

(2) 周期変動

1年を周期とする

季節変動

(3) 誤差変動

偶然に起因する

不規則変動

(4) 移動平均法 とは、とれたたけ誤差を減らす、

あるデータに含まれる誤差を、前後のデータに含まれる誤差と共喰いさせながら減らしていく方法である。

誤差は減るが、データが損をする

その法則は、傾向 うまく過去の出来事を説明し、かつ、将来のことを予測することによって行う。

多くの現象は必ず、周期 誕生・成長・成熟・衰退・死 というサイクルを辿っていくといふことである。

最小二乗法

残差の平方和(面積)が最小となる直線
を求める

$$\sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2$$

$Y = a + bX$ という直線式

残差 $d = Y - a - bX$

式の左辺を D とすると

D が最小になるのは、 D が a, b による偏微分
が 0 になる場合になる。

左辺を D として a を偏微分 $\frac{\partial D}{\partial a}$

$$\frac{\partial D}{\partial a} = 2 \sum (Y - a - bX) (-1) = 0$$

$$-2 \sum Y + \overset{2 \sum}{\cancel{2 \sum}} a + \overset{2 \sum}{\cancel{2 \sum}} bX = 0 \quad \sum Y = \sum a + b \sum X$$

$$\bar{Y} = a + b\bar{X} \quad a = \bar{Y} - b\bar{X}$$

左辺を b で偏微分 $\frac{\partial D}{\partial b}$

$$\sum Y = \sum a + b \sum X \quad \frac{\partial D}{\partial b} = \sum X(Y - a - bX) = a \sum X + b \sum X^2$$

$$b = \frac{n \sum XY - \sum X \sum Y}{n \sum X^2 - (\sum X)^2}$$

$$b = \frac{\sum (X - \bar{X})(Y - \bar{Y}) / n}{\sum (X - \bar{X})^2 / n} = \frac{\sum XY}{\sum X^2}$$

4. 予測の手からり

(1) 過去にありものの

過去のデータ、その延長

(2) 未来にありものの

世では将来の流れ

相手の手の予測

→ 打ち手を決める

これを誤れば 大恥 する

政治家は

時代の流れ

選挙運動を予測

何をいふ対象

現象に起る事象の予測

→ 政策を決める

↓に誤っても……?

これに誤れば 大恥

(3) ソウニエの崩壊

世の中の矛盾 制度の不一致 現状の流れ

ソウニエ経済、社会の将来予測

人民の生活、不平等

現象に起っている事象、政治、経済、社会

→ 崩壊

予測は、判断し、意思を注ぎ、行動を開始するところから!!

7 予測の形式

(1) 直線

一つの傾向のみで $\rightarrow 0 - \infty$

書店の将来の数 直線の上で減り $\rightarrow \infty$

(2) 二次曲線

一つの傾向のみで増えたり減ったり

書店の減少傾向 曲線の上で増えたり減ったり $\rightarrow \infty$

(3) 変化する予測は適当でない



0 になる

(4) 指数曲線

$$y = ba^x$$

$$\log y = \log b + x \log a$$

$$\log y = Y$$

$$\log b = B$$

$$\log a = A$$

$$\rightarrow Y = B + Ax$$

回归分析

原因と結果の関係式

$$Y = aX + b \quad \text{因果関係}$$

因果関係

散布図 2変数データの分布

視覚で確認することの重要性

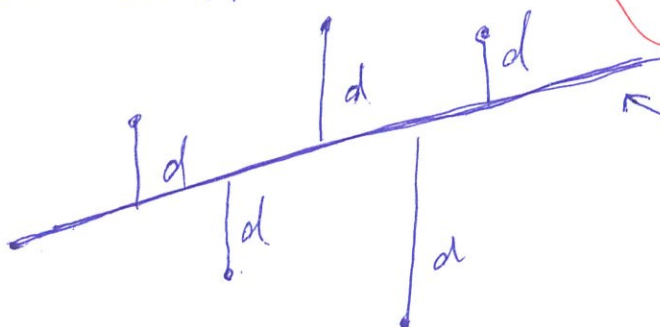
最小二乗法 (平方和, 面積和)

残差の2乗和を最小にする直線が最も相関する回归式。
誤差

$$Y = a + bX$$

残差を d とすると

$$\sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2$$



$$Y \pm d = a + bX$$

$$d^2 = (Y - a - bX)^2$$

$$\sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2$$

$$\leftarrow Y = a + bX$$

$$D = \sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2 \text{ の値を最小にするように}$$

a, b の値を決すれば、 D が最小になる。

Tip
① 最小-最大

D が最小になるのは、 D の a, b に対する偏微分を
左辺を D として、 a を偏微分 $\left(\frac{\partial D}{\partial a}\right)$ 、右辺を D として、 b を偏微分 $\left(\frac{\partial D}{\partial b}\right)$
両方が 0 になる場合である。

$$\frac{\partial D}{\partial a} = 2 \sum (Y - a - bX) (-1) = 0$$

a を微分すると $-a$ になり、 (-1) になる a の微分 $(Y - a - bX)' = -1$

$$\frac{\partial D}{\partial b} = 2 \sum (Y - a - bX) (-X) = 0$$

b を微分すると $-bX$ になり、 $(-X)$ になる b の微分 $(Y - a - bX)' = -X$

a を微分すると ②

$$-2 \sum Y + 2 \sum a + 2 \sum X = 0 \quad \sum Y = \sum a + b \sum X$$

$$= na + b \sum X$$

$$a = \bar{Y} - b\bar{X} \text{ となり}$$

$$b = \frac{n \sum XY - \sum X \sum Y}{n \sum X^2 - (\sum X)^2}$$

分母、分子を n で割ると

$$b = \frac{\sum (X - \bar{X})(Y - \bar{Y}) / n}{\sum (X - \bar{X})^2} = \frac{\sum XY}{\sum X^2}$$

$$Y = a + bX$$

$$Y = \bar{Y} - b\bar{X} + \frac{\sum XY}{\sum X^2} X$$

$$= \bar{Y} - \frac{\sum XY}{\sum X^2} \bar{X} + \frac{\sum XY}{\sum X^2} X$$

$$= \bar{Y} + \frac{\sum XY}{\sum X^2} (X - \bar{X})$$

連続的に複利が増加する現象

$$y = Ae^{-ax}$$

A は $x=0$ での時の y の値、(初値)
つまり元金に相当する

(1) 「あり期間」ごとに複利で段階的に減少してゆく場合の残高は、

$$y = A(1-\alpha)^x \quad \text{--- ①}$$

「あり期間」を k 等分して、それぞれ a/k の率で減額していく。

「あり期間」後には 1 の元金から

$$\left(1 - \frac{a}{k}\right)^k$$

の関係となる。

(2) 「あり期間」後に、この値が段階的に 1 ステップだけ減少した
値に等しいとすれば、 α と a の関係には

$$1-\alpha = \left(1 - \frac{a}{k}\right)^k$$

の関係が成り立つ

(3) ここで

$$\lim_{k \rightarrow \infty} \left(1 - \frac{a}{k}\right)^k = e^{-a}$$

$$1-\alpha = e^{-a}$$

(4) ①に代入して $y = A(e^{-a})^x = Ae^{-ax}$

因果関係の分析

$$Y = a + bX$$

① 予測アイスクリームの売上

$$\text{売上件数} = a + b \times \text{気温} (^{\circ}\text{C})$$

この関係から一定期間内連続と推定されれば、翌日の予想気温から、売上件数を予測出来る② 管理

$$\text{売上} = a + b \times \text{広告宣伝費}$$

目標とする売上高を設定されたら、

支出する 広告宣伝費の上限の金額を定める

ことが出来る

2020.12.21

重回帰分析

説明変数 (独立)

日付 X_1

天候 X_2

イベント X_3

目的変数
(従属)

コンビニの年売上 Y

$$Y = aX_1 + bX_2 + cX_3 + h$$

重回帰分析により、複数の要因の中から、

結果に対して明確に影響のある 要因を抽出する 要因分析

目的 (従属)
要因

説明 (独立)
結果

ある原料から製精される製品の製造条件と収量

投入速度 $a_1 X_1$

反応炉温度 $a_2 X_2$

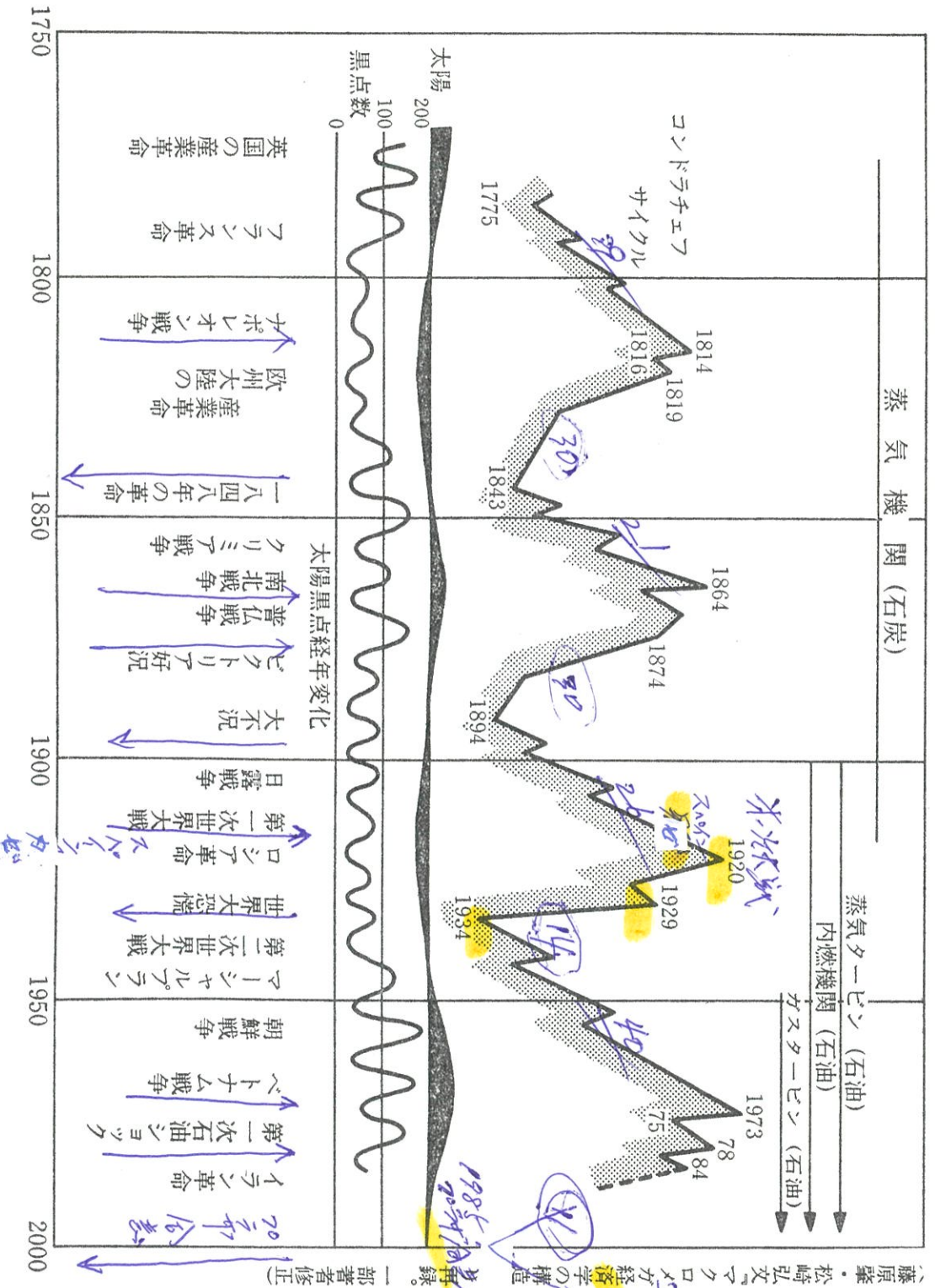
反応炉圧力 $a_3 X_3$

収量 Y

$$Y = a_1 X_1 + a_2 X_2 + a_3 X_3 + h$$

2nd. 1st/1st 1st

図4-3 コンドラチエフ サイクルと太陽黒点活動の相関



4. 相関係数

相関は、1のみに増減する傾向、を意味する。

x に関する値を x_i とし、

それに対応する y に関する値を y_i とし、

$$r = \frac{\sum (x_i - \bar{x}) \cdot (y_i - \bar{y})}{\sqrt{\sum (x_i - \bar{x})^2 \cdot \sum (y_i - \bar{y})^2}}$$

$\bar{x}$ と $\bar{y}$ はそれぞれ

周期変動を意味する。

周期変動を消すには、1周期分の時点について

移動平均すると、その周期変動は完全に消滅する。

三国時代前後

五胡十六国時代

⑥

2020.06.01
2020.04.06
2019.04.08
29.05.01
29.04.00
29.04.03
29.02.20
29.02.06
29.01.02

BC 202 垓下に項羽を降し、劉邦 前漢を建国 (~AD 8)

AD 8 王莽 新を建国 (~25)

25 劉秀 (光武帝) が王莽を倒し、後漢を再興 (~220)

184 黄巾の乱の乱 発生

220 曹操 魏を建国 献皇帝を灰にする (魏 220~265 洛陽)

221 劉備 蜀を建国 (221~263 成都)

222 孫権 吳を建国 (222~280 建业)

265 魏に代り、司馬炎が晉 (西晉) を建国 (265-420 洛陽)
280年、呉を併せて天下統一 317年東晉となる

304 五胡十六国時代 (304~439)

420 南北朝時代 (420~581)

南朝 宋・斉・梁・陳 (江南)

北朝 北魏・東魏・西魏・北斉・北周 (华北)

581 南北朝を統一し 楊堅 (文帝) が隋を建国 (581-618 長安)

618 李淵 (高祖) 唐を建国 (618~907 長安)

40
~50年
の
時代

晋

No.

Date

西晋 (265 ~ 316)

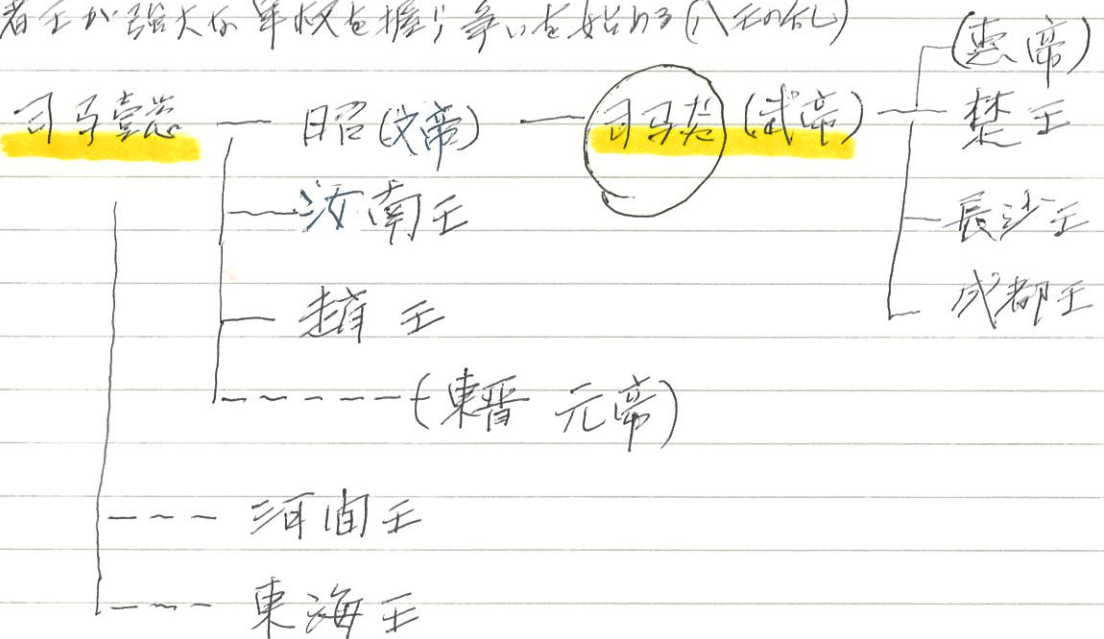
東晋 (317 ~ 420)

1. ^{シハイ}司馬懿 (仲達) が魏の政治を牛耳り

孫の司馬炎が魏のより禅譲を受け王朝を開いた。

司馬炎 (武帝) は、280年吳を平定し、天下を統一した。

諸王が強大な軍権を握り争いを始める (八王の乱)



2. 八王の乱 (300年 趙王の乱を起す)

八王の乱を機に、五胡 (匈奴、羯、鮮卑、氐、羌) が自立運動を起して、永嘉の乱が始まる。

3. 永嘉の乱 (永嘉年間 307-313)

西晋末期、匈奴が华北を舞台といまとした動乱

八王の乱後の西晋の衰退の中で、山西省一帯にいた匈奴が劉淵は
(劉邦、曹操と) 中原に侵入し自ら皇帝となった。420年西晋は倒れる。
(劉淵は西晋の臣、五胡の華北支配、江南に東晋王朝を
出現した 五胡十六国 (五の民族による十六の国の出来) 時代へ

4. 五胡十六国時代 (304~439)

東晋 (317-420)、前秦、前燕 (三つ鼎立)

司馬仲達の四男の曾孫 司馬睿が江南に開く。

江南のめざましい発展の基を築いた。

前秦 才力雄の君主 苻堅 (357-385) は、大秦天子の位につき、
370年前燕をとし、华北統一を行い、東晋から四川を奪い西域を征服
石虎の如き神作の下、徳治政治を標榜し、五胡諸国中才の名君と評される。

5. 北朝 北魏、東魏、西魏、北斉、北周 (439-589)

439年 北魏が华北を統一

6. 南朝 宋 齊 梁 陳 (420-589)

東晋滅亡後

五胡十六国

(6)

III 貴族の世の中

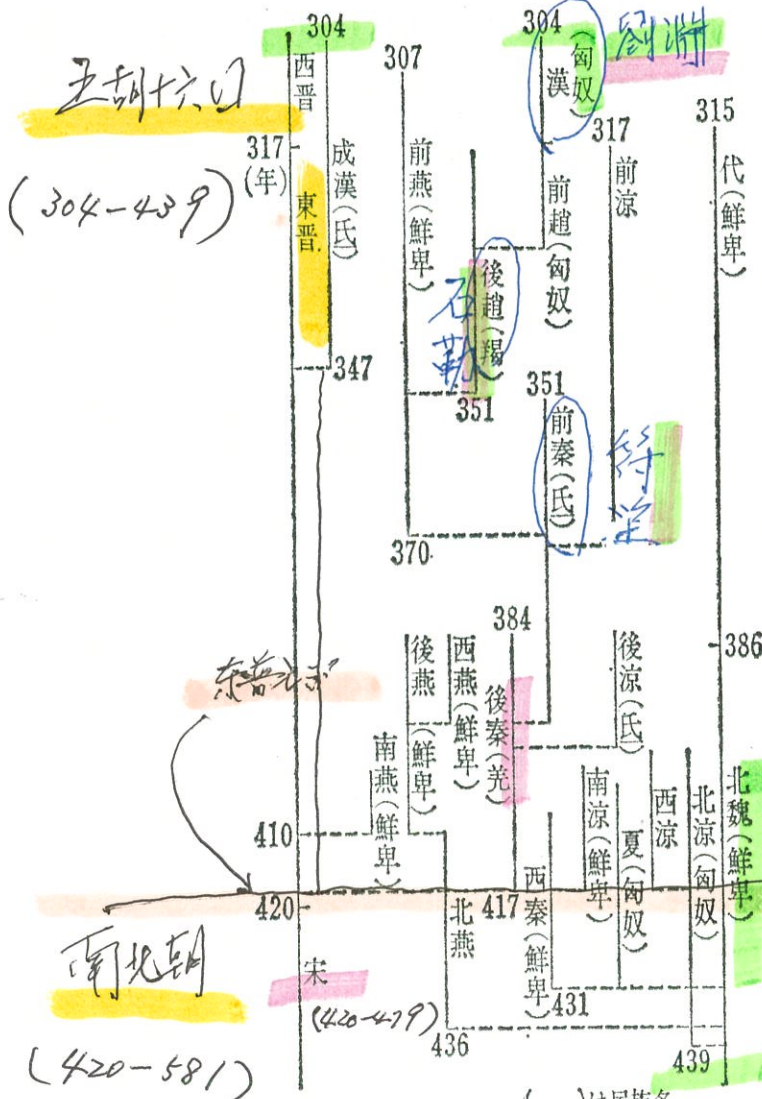
符堅

三、貴族と軍人

用之益、而歳計有余。輔相三世、倉無儲穀、衣不重帛。

而も歳計余りあり。三世に輔相として、倉に儲穀なく、衣、帛を重ねず。

——東晋王朝の中期は、比較的安定した時期である。北方では、五胡十六国の興亡がくり返され、東晋はそれによって脅威をまぬがれるとともに、その虚に乗じて中原回復をくだてようとする動きさえ起こった。この動きは、一面においては、従来からの名流貴族と職業軍人出身の将軍との、主導権争いの場ともなったのである。



鳩摩羅什 350~409

項目

内容

備考

(304~439)

五胡十六国時代

呂光は、前秦の皇帝苻堅の命により、鳩摩羅什を求めて葱嶺(74x)に出征し、葱嶺を下りて羅什を得た。しかし苻堅が肥水で東晋に敗れたのと同時に姑臧(甘肃省)に降り立ち、大皇帝として天子と称した。
 鳩摩羅什の父はインドの貴族で、母は葱嶺門王の妹であった。約300年頃葱嶺で生まれ、7歳の出家し、9歳で母と別れ、ヤハミールへ行き仏教を学んだ。仏教界の天才児と呼ばれ、母親から東方に仏教を布くことを託されていた。
 52才のとき、はじめて長安に入り、仏典の訳撰という大事業にたずさわった。葱嶺の古語は、ギリシヤ語やラテン系の言語と云われている。
 羅什の200年後、三藏法師玄奘というもう一人の仏教界の天才児が出現。玄奘の仏典訳撰は正確無比なことが知られている。
 羅什の訳撰は、逐条的に正確な訳語も、仏典の精神をつかみ、わかりやすく訳すことに重きを置かれていたといわれている。

五胡 (漢以外の五つの異民族)

(1) 鮮卑 (トウ系) — 前燕、後燕、北魏

(2) 匈奴 — 漢、前趙

(3) 氐 (テイ) — 前秦 (苻堅)

(4) 羯 (ケツ) — 後趙 (石勒)

(5) 羌 (キョウ) — 後秦

(420~589)
南北朝時代

異民族を統一、民衆を治めしめ、仏教の必要であった。

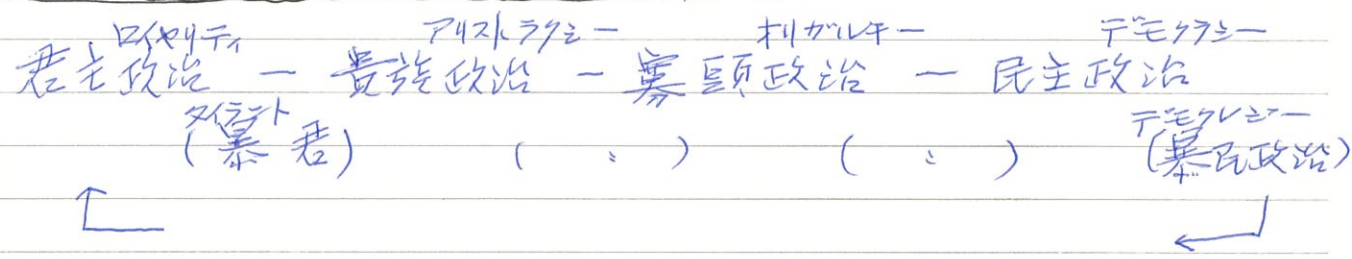
三国志の曹操

年を七倍す者は年倍なり

鎌倉を七倍す者は鎌倉制

— 徳川幕府
(体制の内部崩壊)

体制の内部腐敗が新体制を呼び出す



20歳の洛陽北部庭に就任する一瞬、不正を許さぬ
苛烈な改革と厳罰を断行し、治世を成す。

黄巾の乱に赴くと騎都尉として討伐戦に何れも功を上げる。
一時陰謀を企てた後、北方へ再び八校尉として復帰。

董卓の暴政に反対、陳留へ参入。

兗州刺史(民屯)としての世に即ち政策を打ち出し、帝を擁護して自らの本拠地に遷都。
將軍兼宰相として進駐し、中華の紛争を平定。

黄巾軍蜂起

「社」

土地神

「廟」

祖先を祭る

➤ 農村共同体

「流民」

--- 豪族の土地兼併が進み、

飢饉、疫病、官吏の搾取



流民化

「太平道」

--- 新興宗教

呪術師 涿鹿郡の「張角」 大賢良師と称す
「黄の道」

(1) 神い邦礼

(2) 自分が犯した罪の告白 --- 地縁を超越、人はどうあるべきか

(3) 心と心との魂の救済 --- 人と人をつらな

↓
数十万の信者

蒼天の命運は尽き、黄天の時代が来る、その下は甲子年 天下は太平
とな

永寿元年 (155) 曹操生れぬ。

光和七年 (184) 29 黄巾の乱 起る

中平六年 (189) 34 袁紹、袁術、宦官200余人を皆殺しする
董卓、洛陽に入城し 朝政を専らする
袁紹、袁術、曹操、洛陽から河東に脱出

初平元年 (190) 35 袁紹と董卓討伐の軍を起す
董卓、長安遷都を強行、洛陽を焼き払う

〃 二年 (191) 36 袁紹、冀州牧の地位を奪う
曹操、兗州軍を破る

〃 三年 (192) 37 袁紹、公孫瓚を界橋に破る
呂布、王允と合謀、董卓を殺す
曹操、冀州牧に迎えられる、青州の豪族三十余人を降し、青州兵を起す

〃 興平元年 (194) 39 曹操、呂布に兗州を奪われる。
陶謙病没し、劉繇、徐州の牧に

〃 二年 (195) 40 曹操、呂布を定陶に破り、兗州を奪回する。
呂布、劉繇のもとに走る。

建安元年 (196) 41 劉繇、呂布に徐州を奪われ曹操のもとへ
曹操 南遷帝を許に迎ふ。
〃 屯田を興す

〃 二年 (197) 42 袁術、寿春(九江)で帝号を僭称す

〃 三年 (198) 43 曹操、徐州を攻略
呂布、陳宮を殺す

〃 四年 (199) 44 袁紹、公孫瓚を易京に破り、河北を制圧

〃 五年 (200) 45 曹操、劉繇を徐州に破り 劉表を捕縛
曹操、袁紹軍十万人を官渡に破り、華北統一の展望を開く

〃 七年 (202) 47 袁紹、病を發し、失意のうちに没す。

武帝纪、太祖武皇帝、沛国谯县人，姓曹名操、字孟德、西汉相国曹参的后代。

汉灵帝光和末年（183），发生黄巾军起义。

汉灵帝中平六年（189），董卓此时已除掉太后和弘农王。太祖到了陈留县，变卖家产，募集义军，准备征讨董卓。十二月，才已吾县树旗起兵。

汉献帝初平元年（190）正月，后将军袁术、冀州牧韩馥、豫州刺史孔伋等，一起起兵征讨董卓，他们都带兵数万，共推袁绍为盟主，太祖代理任奋武将军。这年二月，董卓得知各地兴兵征讨自己的消息，胁迫献帝迁都长安。董卓仍带兵驻守洛阳，纵火烧毁了皇宫。

这时太祖说：“我们义军是讨伐乱臣，现在各路军队都已会合，诸位还有什么疑虑的？——天下将乱，百姓不知依附何人，这正是上天要使他灭亡的契机。一战就能安定天下，机不可失。”

PROGRAM MANUAL

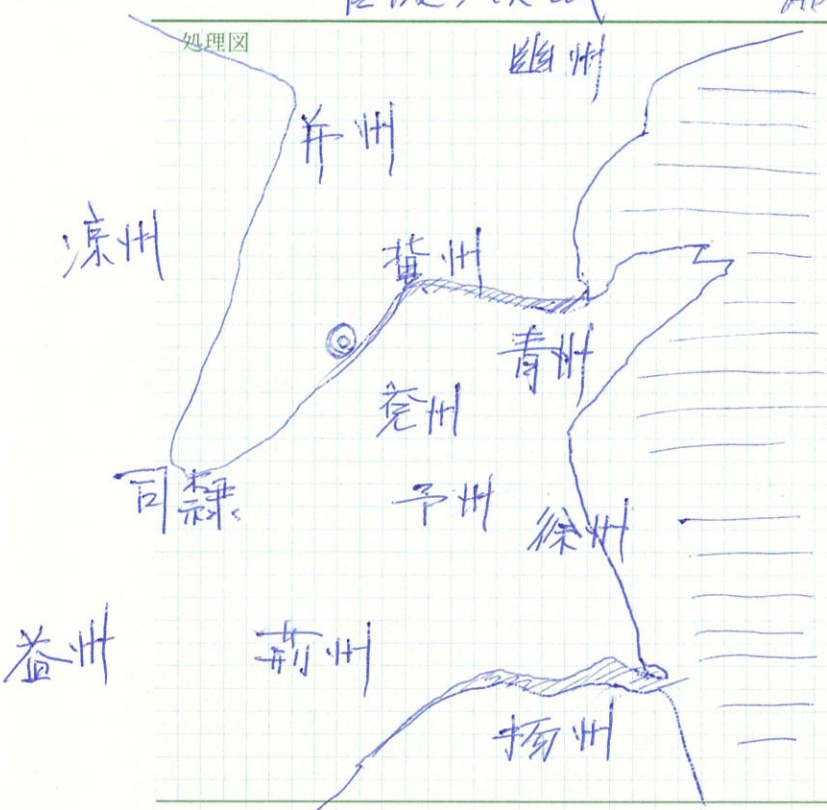
PROGRAM NAME PROGRAM NO. PROGRAMMER

官渡の決戦

AD. 200年 曹操 45才

処理図

処理手順



袁紹
冀、幽、并、青
張邈、逢紀、田豐、簡雍、許攸
程昱、文醜、趙雲、郭圖
曹操
亮、子
天子を挟んで諸侯に對す

処理条件

不
詔將以爲可故。公曰、吾知紹爲人。
志大而智小、色厲而胆薄、克己而少威。
兵多而分画不明。將驕而政令不一。
土地雖廣、料穀虽豊、適足以爲吾奉也。
秋八月、公进军黎陽、使臧霸等入青州破青。
北海、东莞、留于禁在河上。九月、公还许。
分兵守官渡。冬十一月、張繡率衆降、封列侯。
十二月、公军官渡。
田豐说紹袭太祖後、紹辞以子疾、不许。
豐举杖击地曰、夫遭难遇之機、而以嬰兒之疾
失果会、惜哉。

PROGRAM NAME

短歌行 曹操

PROGRAM NO.

PROGRAMMER

処理図

処理手順

人生幾何ぞ

人の生はたとえてみれば

朝に露とて暮さへたはら

日の昇ることもに跡形もた

消えいくはたに存在

露と霧 何ぞ時

露晞明朝更復落

人生一去何可归

処理条件

对酒当歌

人生几何

譬如朝露

去日苦多

慨当以慷

幽思难忘

何以解忧

唯有杜康

酒の代名詞

青青子衿

悠悠我心

但为君故

悲吟至今

呦呦鹿鸣

食野之苹

我有嘉宾

饔飧在侧

鼓瑟吹笙

明明如月

何时可掇

忧從中来

不可断绝

城隅度所

枉用相存

契阔谈讌

心念旧恩

月明星稀

乌鹊南飞

绕树三匝

何枝可依

山不厌高

海不厭深

周公吐哺

天下归心

DATE

仏教の伝来と興隆

2021.04.24

552 欽明天皇 13年10月

百濟の聖明王、釈迦仏の金明像一尊、経論若干巻
仏教の功徳を賞讃した上表文の南犬上

天皇曰 群臣に對し。

西蕃の仏の相好端嚴、未だ余に有らず、礼ぶんや

蘇我稲目 — 諸君を告ぐ

物部氏等
中臣連等 — 口神の怒り致さん

蘇我稲目に 授けて 試みん礼さん

上宮聖鏡瑞説 552.12.12 百濟王の聖明王

始りて仏の像経典を以て傳へ奉る

細い蘇我稲目に 授けて 崇め降之しむ

蘇我氏の崇拝年表 古くより仏教の信仰が有るが

宗廟儀や百濟などの多様な経典を求めた例

552年説

この時の釈迦入滅後 1501年目に当る 末法元年

500年この区切りに於ける像法才二時

物部守屋の滅亡 聖徳太子 蘇我馬子の勝利

聖徳太子 三経義疏を著す
法華経、維摩経、勝鬘経

推古天皇 公正な女帝
聖徳太子を継命 ^{摂政に} 冠位十二階、十七箇憲法
推古15年 小野妹子を隋に派遣
聖徳太子と馬子に、「文鏡秘府論」を編纂
(498年説)

白鳳時代 文化の革新 天皇の宮を飛鳥から難波へ移す
改革者 蘇我入鹿を暗殺、中大兄皇子が起す
壬申の乱 天智天皇の太子大友皇子と皇弟大海人皇子

奈良時代 聖武天皇 (724~749) の時に仏教は頂点
(孝徳天皇后) 東大寺大仏の建造
金堂 唐招提寺を建立

平安時代 貴族群の政治に中心
794年 桓武天皇 (781-806) 平安京に遷都
嵯峨、弘仁を中に派遣 新しい仏教として旧仏教に代替
(真言宗) (天台宗)

項目

内容

備考

(304~439)

五胡十六国時代

呂光は、前秦の皇帝苻堅の命により、鳩摩羅什を求めて亀茲(クダ)に出征し、亀茲を下して羅什を得た。しかし苻堅が肥水で東晋に敗れたのを聞いて姑臧(甘肃省)に逃れ、大凉を建て天王と号した。
 鳩摩羅什の父はインドの貴族で、母は亀茲国王の妹であった。母が30年頃亀茲で生まれ、7歳で出家し、9歳で母と共にカシュミールへ行き仏教を学んだ。仏教界の天才児と呼ばれ、母親から東土に仏教を布くことを託されていた。
 52才とさしはじめて般若に入り、仏典の訳撰という大仕事をたずねた。亀茲の古語は、ギリシヤやラテン系の言語と云われている。
 羅什の200年後、藏法師玄奘というもう一人の仏教界の天才児が出現した。玄奘の仏典訳撰は正確無比なことが知られている。
 羅什の訳撰は、逐条的な正確さよりも、仏典の精神をつかみ、わかりやすく訳すことに重きをなされていたといわれている。

五胡 (漢以外の五つの異民族)

(1) 鮮卑 (トウ系) — 前燕、後燕、北魏

(2) 匈奴 — 漢、前趙

(3) 氐 (ティ) — 前秦 (苻堅)

(4) 羯 (ケ) — 後趙 (石勒)

(5) 羌 (キョウ) — 後秦

(420~589)
南北朝時代

異民族を統一し、民衆を治り治められ、仏教が必要であった。

仏教の伝来

(寺島美部 WU 総論から)

1. 釈迦の入域 (BC 383) から 約 1,000 年経て
538 年 日本に仏教が伝えられた
2. その間、紀元 1 世紀頃には、後漢の明帝の時代 (紀元 67 年) に大月氏から 中土へ伝わった。
3. 紀元 1 世紀末には、フシ^朝-十八^朝から インド西北部、中央アジア、敦煌^{カニニカ王}など 中土北西部を版図とし、
中土に仏教を 本格的に伝える 西域道^{自らも仏教に帰依した}となった。
漢訳仏典、大乘仏教の発達、仏教美術
4. 玄奘三蔵、約 16 年間のインド滞在
般若心経の訳出
色即是空、空即是色
心无所住、而生其心
5. インド本土の「世に」の概念と「空」
6 世紀のインドにおいて 位階の宗教法に
「世に」の概念が生まれた
6. 龍樹 (約 150-250 頃)
インド最大の仏教哲者、空の思想を確立

10. 親鸞

死ぬ時に阿弥陀仏の 来迎を待つとはどういうことか。

信仰の道は、かみかきの道。

阿弥陀仏の 信を心得た時には、ゆるぎない信仰で、喜ぶ心に生ずる。

親鸞においては、浄土教は、死後の教ではなく、生の教である。

生きている人のための仏教である。

その浄土教は、後に死後の教となる。

11. 法相宗

一切の存在は、誤(心)の作り出した仮の存在

中に玄奘のイデオロギイを伝える

12. 人工知能を探究するコンヒュータ

月暹を説明する脳科学

心の現象を制御しようとする仏教

法相宗の開祖 玄奘三蔵法師

般若心経

空という概念の誤解

「色即是空・空即是色」 (空とは无心ではない)

「无无所在・同生共心」 (とちわけられない)

空は般若の「見」であり、「無」ではない

13. 百済の聖明王において

日本に仏教が伝えられたのは (538年)

仏教の入滅から約14年

13 中に仏教伝来

後漢の明帝の時代 (67年)

太尉の時から「四十二章経」が伝わる

14 朝鮮半島への仏教伝来

中江・東晋から (384年) 百済へ

15. 人々の中に部族、民族を超えた「経済」を
求める心

秋尊の10人の高弟

- | | | | |
|--------------------------------|--|---|--------------------------|
| 1、 智慧オ- | 舍利弗
シヤリホフ | サ-リ
シヤリ フラタ | |
| 2、 神通オ- | 目犍連
モクレン | モッカラ-ト | |
| 3、 頭陀(苦行)第一
スダ | 摩訶迦葉
マカヤエフ | マハーカッサパ | |
| 4、 天眼オ- | 阿那律
<u>アリツ</u> | アナニ
アナルン | 衆物未来の生死の
姿を知る能力 |
| 5、 解空オ- | 須菩提
スボタイ | スバーティ | |
| 6、 說法オ- | 富楼那
フナ | フナ | 色白く立派な
もつて |
| 7、 論議オ- | 迦旃延
カセン | マハ
カヤナ | アニタ仙人の弟子
長老文をいふ
こと |
| 8、 持律オ- | 優婆塞
ウパシ | ウパシ | スーラの出身 |
| 9、 密行オ- | 羅睺羅
ラウラ | ラーラ | 仏他の子
釈迦の長子 |
| 10、 多聞オ- | 阿難陀
アナン | アナン | 仏の教えを聞き
主の御用をいふ
こと |
| 弟子
子
妻
故郷
父
いとこ | ナンダ
ラーラ (震障) 姉妹
ヤエダ
カホラハスト
スポート
アナン
アナン
アナン | 霊鷲山 キンダク-タム
ヒンダク-タム (アナン)
アナン (アナン)
アナン
アナン | |

仏教の原点と世界化

青島実部 脳カレッシン 208 ~

2021.03.29

1. 仏陀が 2500 年前に創った仏教

日本に伝わり 1400 年以上 (5 世紀ごろ)

2. 涅槃に入ると仏陀

自覚の明 — 自分を執り所として生きよ!!
法覚の明 — 727 の 教令(法)を執り所として生きよ!!

3. 最後の教え

ひとり離れて、修行し、歩くかよい。
あなかも 一角の犀 なるべし
いかなる存在も、絶対視するなく、
阿耨多羅三藐三菩提に到る。

4. 大乗仏教の登場

大きな船、民衆の救済

5. 南無仏教と大乘仏教

修行者の宗教から衆生の救済の仏教へ

6. 龍樹 ナガールジュナ

大乘仏教の祖

仏教思想の柱となる「空」の体系化

「空」とは 存在するものの実相の無い といふ事

あらゆる執着からの解放心

7. 般若心経

大乘仏教を凝縮

観自在菩薩は、完全なる智慧の境地に向けた実践において、

存在するすべてのものは、実体の無いものと見抜き

一切の苦悩や災禍を取り除いた。

8. 般若 完全なる智慧

波羅密多 完成する

染着のないものに執着せず: 完全なる智慧に
近づく!!

9. 現在, 存在すると思いい入っているものの

「空」にあるという視界、虚構の、デジタル革命の
中で常態化している現状 -

「イマ」「ユウ」「ワタシ」を優先させる虚構

10. 仏教における認識

一切の認識は、それ自体の心(心)に於て
生み出されたもの

一切の事物、事象は 心の本体である心(心)の
作用に生み出されたもの、外界に存在するものではない
(現心)